

校長室だより

8月

京都市立音羽小学校
校長 藤村 徹

学校教育目標

ひとりひとりが **みんなと共に** **個性豊かに** **たくましく** **生きる** **子どもの育成**

目指す子ども像

- ① 自他を大切にする子ども
- ② 自分の可能性にチャレンジする子ども
- ③ 自ら学ぶ子ども

毎日暑い日が続いています。子どもたちはプールで元気に泳いでいます。

「**継続は力なり**」とよく言います。ほんとうにそう思います。昨年12月1日より、走り始めた6年生ですが、どの子どもも見違えるようにたくましく走っています。走り続けるということは、ほんとうにしんどいことです。ましてや、暑い夏はとくに堪えます。強い意志と仲間にあずけられて、続けられるのだと思います。この力は、必ずこれからの生活に生きる力となります。6年生に応援をお願いします。



よく冷えた部屋でゲームばかりしていませんか？

先日「**ゲーム脳の恐怖**」(NHK出版)という本を読みました。小学校低学年から毎日ゲームをしつづけると、ゲーム脳になるということ。ゲーム脳になると脳の前頭前野が低下し、老人の痴呆症と同じ脳波になってしまうということ。前頭前野の低下は、理性、道徳心、羞恥心などこんなことをしたら周囲がどうおもうだろうということが考えられなくなってしまう、がまんするという抑制心がなくなってしまうということ。ゲーム脳になってしまうと、ゲームをしていないときでも、現実と空想の世界の区別がつかなくなってしまうということが書いてありました。

また、中学や高校生になってからゲームを始めた人はゲーム脳になりにくいということ。3つ子の魂百までといわれるが、このことは三歳ごろまでに脳の神経回路が次々形成されるときであり、母親の接し方によって大きく左右されるということ。その第二の配線ができるのが4から10歳ぐらいにかけてで、親子のコミュニケーションの果たす役割が大きいということ。そして、結論としてゲームは、決して脳を健全に発達させるものではないとい

うこと。前頭前野の機能を回復するには五感(目、鼻、口、耳、手足などによる感覚)を効果的に養う経験(遊び)が不可欠であるという内容でした。

一読をお勧めします。

暑い夏。外へ出て元気に遊んでほしいものです。もちろん時代は昔とは違い暑さも相当厳しく、熱中症になっても困るのですが。暑さに負けない体力をつけて、体を動かしてほしいものです。

